

令和 6 年 度
事業 報告 書
決算 報告 書

公益財団法人広島市農林水産振興センター

目次

第1 事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	1
3	理事会等の開催	3
4	定款の変更	4
5	職員の状況	4
6	事業の実施状況	
(1)	農業の振興（公益目的事業1）	
ア	調査及び試験研究	5
イ	担い手の育成・支援	6
ウ	農業への理解の促進	9
(2)	林業の振興（公益目的事業2）	
ア	森林の保全・整備	14
イ	担い手の育成・支援	14
ウ	林業への理解の促進	15
(3)	水産業の振興（公益目的事業3）	
ア	調査及び試験研究	16
イ	担い手の育成・支援	19
ウ	水産業への理解の促進	21
(4)	収益事業	22
7	無償使用貸借資産	22
8	附属明細書	22

第2 決算報告書

(1)	貸借対照表	23
(2)	貸借対照表内訳表	24
(3)	正味財産増減計算書	25
(4)	正味財産増減計算書内訳表	26
(5)	財務諸表に対する注記	27
(6)	附属明細書	28
(7)	財産目録	29

第 1 事業報告書

令和 6 年度 公益財団法人広島市農林水産振興センター事業報告書 (令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島市における農林水産業等の振興を図るとともに、農山漁村地域の持つ公益的機能を活用した事業を推進し、もって活力ある農山漁村地域の確立と健康で豊かな市民生活の向上に寄与することを目的とする。

(2) 概況

ア 設立年月日

平成 4 年 4 月 1 日 財団法人広島市農業振興センターとして設立
平成 10 年 4 月 1 日 財団法人広島市林業振興公社と統合
平成 17 年 4 月 1 日 財団法人広島市水産振興協会と統合
平成 24 年 4 月 1 日 公益財団法人へ移行

イ 基本財産

設立当初、基本財産は 5,000 万円（全額広島市出資）であったが、平成 10 年 4 月 1 日の財団法人広島市林業振興公社との統合に伴い、同財団から 3,000 万円を寄附受領した。

また、平成 17 年 4 月 1 日の財団法人広島市水産振興協会との統合に伴い、広島市から 1,000 万円の追加出資があったことにより、現在の基本財産は 9,000 万円（うち広島市出資 6,000 万円）である。

ウ 実施事業

- (ア) 農林水産業の振興に関する指導及び普及啓発
- (イ) 農林水産業に関する調査及び試験研究
- (ウ) 水源涵養、緑地保全等公益的機能の活用に関する指導及び普及啓発
- (エ) 農山漁村地域の担い手の育成及び指導
- (オ) 農地利用集積円滑化に関する事業
- (カ) 水産資源の維持増殖に必要な重要魚介類等の種苗生産
- (キ) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

理事長	1 人
常務理事	1 人
理事	8 人
監事	2 人
評議員	7 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 6 年 4 月 1 日	理事長	友 広 整 二	就任
令和 6 年 4 月 1 日	常務理事	萬ヶ原 伸 二	就任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 6年 6月 3日	理事	佐 藤 和 夫	退任
令和 6年 6月 3日	理事	島 本 啓 司	退任
令和 6年 6月 3日	理事	向井田 輝 紀	退任
令和 6年 6月 3日	理事長	友 広 整 二	重任
令和 6年 6月 3日	常務理事	萬ヶ原 伸 二	重任
令和 6年 6月 3日	理事	河 野 一 信	重任
令和 6年 6月 3日	理事	佐名木 由美子	就任
令和 6年 6月 3日	理事	清 水 守	重任
令和 6年 6月 3日	理事	鈴 木 修 治	重任
令和 6年 6月 3日	理事	福 田 卓 己	就任
令和 6年 6月 3日	理事	矢 野 泉	重任
令和 6年 6月 3日	理事	米 田 輝 隆	重任
令和 6年 6月 3日	理事	和 田 秀 次	就任
令和 6年 6月 3日	監事	井手下 文 子	重任
令和 6年 6月 3日	監事	田 口 依久夫	重任
令和 7年 3月 31日	理事長	友 広 整 二	辞任
令和 7年 3月 31日	常務理事	萬ヶ原 伸 二	辞任
令和 7年 3月 31日	理事	河 野 一 信	辞任
令和 7年 3月 31日	理事	清 水 守	辞任
令和 7年 3月 31日	監事	田 口 依久夫	辞任

イ 令和7年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就任年月日
理事長	友 広 整 二	令和 6年 4月 1日
常務理事	萬ヶ原 伸 二	令和 6年 4月 1日
理事	河 野 一 信	令和 5年 6月 13日
理事	佐名木 由美子	令和 6年 6月 3日
理事	清 水 守	令和 3年 6月 4日
理事	鈴 木 修 治	平成24年 4月 1日
理事	福 田 卓 己	令和 6年 6月 3日
理事	矢 野 泉	令和 2年 6月 18日
理事	米 田 輝 隆	令和 2年 6月 18日
理事	和 田 秀 次	令和 6年 6月 3日
監事	井手下 文 子	平成24年 4月 1日
監事	田 口 依久夫	令和 5年 4月 1日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	倉 本 守	退任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	吉 川 浩 二	退任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	鍛冶山 好 恵	重任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	佐 藤 和 夫	就任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	島 本 啓 司	就任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	波 田 輝 明	重任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	三 浦 隆 志	重任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	山 崎 裕 実	就任
令和 6 年 6 月 3 日	評議員	山 中 幸 男	重任

イ 令和 7 年 3 月 3 1 日現在の評議員は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就任年月日
評議員	鍛 冶 山 好 恵	令和 2 年 6 月 1 8 日
評議員	佐 藤 和 夫	令和 6 年 6 月 3 日
評議員	島 本 啓 司	令和 6 年 6 月 3 日
評議員	波 田 輝 明	平成 2 8 年 6 月 3 日
評議員	三 浦 隆 志	令和 2 年 6 月 1 8 日
評議員	山 崎 裕 実	令和 6 年 6 月 3 日
評議員	山 中 幸 男	令和 2 年 6 月 1 8 日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和 6 年 4 月 1 日 (決議の省略)	令和 6 年第 2 回	1 理事長（代表理事）の選定について 2 常務理事の選定について	選定 選定
令和 6 年 5 月 1 6 日	令和 6 年第 3 回	1 令和 5 年度公益財団法人広島市 農林水産振興センター事業報告及 び決算について 2 定時評議員会の招集について 3 令和 5 年度における職員の職務 に係る倫理の保持に関する状況等 について「報告」 4 令和 6 年度における職務の執行 状況について「報告」	承認 原案可決 終了 終了

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和6年 6月 3日 (決議の省略)	令和6年第4回	1 理事長（代表理事）の選定について 2 常務理事の選定について	選定 選定
令和7年 3月27日	令和7年第1回	1 令和7年度公益財団法人広島市農林水産振興センター事業計画及び収支予算について 2 常勤役員の報酬等について 3 令和6年度における職務の執行状況について「報告」	承認 承認 終了

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付議事項	審議結果
令和6年 4月 1日 (決議の省略)	令和6年第1回	1 理事の選任について	選任
令和6年 6月 3日	令和6年第2回	1 令和5年度公益財団法人広島市農林水産振興センター事業報告について「報告」 2 令和5年度公益財団法人広島市農林水産振興センター決算について 3 評議員の選任について 4 役員の選任について	終了 承認 選任 選任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

令和7年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。（単位：人）

区 分		事務職員					小計	技術職員					小計	業務員	非常勤職員	合計
		部長級	課長級	補佐級	係長級	主事		部長級	課長級	補佐級	係長級	技師				
事務局				1		3	4	1					1			5
農林部	農業担い手育成課					3	3	1	2	1	5	2	11		1	15
	農林振興課		1		1	5	7		2		3	3	8		6	21
水産部	普及指導課					1	1	1			2	1	4		2	7
	栽培漁業課					1	1		1		1	2	4	1	1	7
合 計			1	1	1	13	16	3	5	1	11	8	28	1	10	55

6 事業の実施状況

次の事業を実施した。

(1) 農業の振興（公益目的事業1） ＜決算額：175,370,696円＞

ア 調査及び試験研究 ＜決算額：35,515千円＞

栽培技術等に関する調査及び試験研究

農業経営における収益性の向上と農業生産の維持・増大を図るため、市内農家の経営改善に係る栽培技術等に関する調査及び試験研究を実施した。

(ア) 先進事例等の調査

栽培技術等に関する県内外の先進事例等を調査し、技術の蓄積を図った。

区 分	件 数	内 容
先進地事例調査	3件	1 イチゴの施設栽培の普及性の検討のための事例調査 （山口県防府市 山口県農林総合技術センター） 2 オクラの後作の品目検討のためのスナッフエンドウの 先進地事例調査（鹿児島県指宿市） 3 労力軽減等を図るためのアシストスーツ事例調査 （岡山県岡山市 アシストスーツ展示会）

(イ) 野菜・花き等の栽培試験

先進事例等の調査や市場の動向等に基づき、認定農業者等や直売農家など幅広い経営体向けの野菜・花き等の栽培試験を実施した。

区 分	内 容
優良品種の選定等	オクラのハウス栽培による収量・品質等の調査 スイートコーンのハウス栽培による収量・品質等の調査
環境にやさしい栽培技術の効果検証	有機JAS対応農薬使用や太陽熱土壌処理技術等を用いたコマツナ栽培の収量・品質等の調査
栽培展示	トマト、キュウリ、コギク等 45品目
実証展示	ピーマンの一本仕立て栽培による収量・品質等の調査 キュウリのつるおろし栽培による収量・品質等の調査 ナスの露地栽培による収量・品質等の調査 白ネギの収量・品質等の調査 葉物野菜における生産工程管理（JGAP）

(ウ) 土壌診断

農家ほ場等の定期的な土壌診断を実施し、農作物の生育障害の防止や資材費等のコスト低減を促進した。

区 分	件 数	内 容
農家ほ場	888件	CEC、塩基飽和度など14項目の認定農業者等向け診断 pH、ECなど12項目の一般農家向け診断
センター試験ほ場	106件	試験研究用の14項目分析

(エ) 優良種苗の生産供給

生長点培養等の園芸バイオ技術を活用し、個性的な野菜や地域特産品種等の優良種苗を市内農家へ生産供給した。

品目	数量
サツマイモ	2,290本
スイゼンジナ	150本
ウルイ	50本
計	2,490本

(オ) 農業振興センターの維持管理

施設の機能を良好に保つため、施設内の清掃や警備、設備等の保守・点検等を実施した。

イ 担い手の育成・支援 <決算額：89,213千円>

(ア) 新たな担い手の育成 <決算額：80,006千円>

農業従事者の減少と高齢化が進展する中、新たな担い手を確保し、新鮮で安心な農産物の市民への安定的な供給を行うため、就農相談窓口の運営や担い手育成研修の開催、就農施設の整備等により新規就農希望者の円滑な就農を支援するとともに、就農後の営農支援や6次産業化の促進により農業生産の安定化を図り、地域農業を支える担い手として育成した。

a 就農相談

広島市内への新規就農希望者の一元的な相談窓口となる「広島市就農相談窓口」を運営し、就農に関するビジョンの明確化や栽培技術の習得、就農地の紹介などの一連の支援を市と連携して行うことで、新規就農希望者の円滑な就農を支援した。また、就農に関心のある市民を対象とした休日等の体験講座を開催し、新規就農希望者の拡大を図った。

b 担い手育成研修

広島広域都市圏の連携市町のうち対象となる市町の研修生を受け入れ県、JA等と連携して栽培技術や農業経営等に関する研修等を開催するとともに、就農後の営農を支援し、他産業並みの所得が確保できる“ひろしま活力農業”経営者や直売所などへの出荷を目指す生産販売農家など、多様な担い手を育成した。

【育成研修】

区分	育成人数	研修内容	就農地
“ひろしま活力農業”経営者	26期生 1人	就農予定地での農業経営の実地研修(8カ月)	広島市1人
	27期生 2人	栽培技術や農業経営に関する基礎研修(1年)	広島市2人(予定)
生産販売農家育成コース	令和6年度生 15人	栽培、出荷・販売技術と経営に関する研修(1年)	広島市11人(うち2人は予定)、竹原市2人、廿日市市1人、安芸高田市1人

区 分	育成人数	研修内容	就農地
栽培技術基礎 コース	令和6年度生 11人	栽培、出荷・販売技術に関する研修(1年)	広島市11人

【就農後の営農支援】

区 分	対象者数	支援内容
“ひろしま活力農業” 経営者	1～26期生 47人	果菜類等の栽培技術の指導・情報提供 19人 営農支援講習会の開催 12回 延べ98人参加
「スローライフで夢づくり」新規就農者	1～18期生 111人	
ふるさと帰農者	1～17期生 184人	
“チャレンジ女性” 農業者	1～13期生 60人	
生産販売農家育成 コース	令和5年度生 6人	
栽培技術基礎コース	令和5年度生 3人	

c 就農施設整備

“ひろしま活力農業” 経営者育成研修における実地研修施設及び研修終了後の就農施設とするため、ビニールハウス等の施設を整備した。

区 分	箇所数	1箇所当たり整備内容
ビニールハウス等	2箇所	ビニールハウス 3,000㎡、調整棟 1棟、取水設備その他

d 6次産業化の促進

生産者グループを対象とした農産物加工や新商品開発等に関する講習会の開催等により、担い手の生産意欲を高め所得向上を図った。

区 分	内 容
講習会の開催	SNS活用セミナー
専門講師の派遣	小麦の加工商品の開発検討（安佐北区・アサーズ）2回 ニンジンなどを使ったレシピの試作（東区・安芸町農事研究会） 売れる商品づくりのための商品の包装技術等（佐伯区・農彩館五日市ファーマーズマーケット出荷組合）

(イ) 畜産振興 <決算額：8,974千円>

市民へ市内産畜産物を安定的に供給するため、市内における畜産業の産地育成を推進するとともに、家畜の疾病予防や改良・増殖、畜産物の品質向上に取組み、畜産農家の経営の安定化を支援した。

a 産地育成

佐伯区湯来町における酪農産地の維持発展に向け、生産性の向上やブランド力の強化に関する取組を支援した。

また、新たな和牛産地の形成を図るため、畜産関係団体等と連携した市内産和牛のブランド化・農家の組織化等の支援を実施した。

区 分	件 数	内 容
研修会の開催	6件	最近の畜産情勢について ランピースキン病について アニマルウエルフェアに配慮した家畜の飼養管理等について 最近の種雄牛(黒毛和種)について 暑熱対策について 冬季の飼養管理と疾病対策について

b 家畜診療等

飼養技術に関する巡回指導と疾病の発生予防と早期発見、治療等の家畜診療等を実施し、家畜の損耗防止と畜産物の品質向上を図った。

区 分	対 象	内 容
家畜診療等	畜産農家 18経営体	巡回指導 畜舎の衛生保持等の飼養環境の改善、適切な飼料給与、排泄物の適正処理、畜産物の増産や品質向上に関する技術指導1,048件
		家畜診療等 疾病の発生予防と早期発見、治療 416件 無血去勢・除角 35件

c 家畜の改良・増殖

人工授精及び受精卵移植による家畜の改良・増殖を計画的に実施し、畜産物の品質の向上と生産コストの低減を図った。あわせて乳牛での和牛子牛増殖を推進し、高付加価値型酪農による収益性の向上を図った。

【人工授精】

区 分	件 数
人工授精	137件

【体内受精卵採取】

区 分	件 数	採卵個数	正常卵数
体内受精卵採取	8件	36個	16個

【体外受精卵作成】

区 分	件 数	作成卵数
体外受精卵作成	6件	56個

【受精卵移植】

	件 数(A)	受胎確認 件数(B)	受胎確認中 件数(C)	受胎率 B/(A-C)
乳牛に移植	17件	7件	0件	41.2%
和牛に移植	5件	2件	0件	40.0%
交雑牛に移植	3件	1件	0件	33.3%
計	25件	10件	0件	40.0%

(ウ) 広島市農業経営改善支援センターの運営 <決算額：233千円>

認定農業者等の農業経営の安定化を図るため、広島市農業経営改善支援センターの運営を行い、経営改善に関する支援等を実施した。

a 経営改善に関する支援

農業経営改善計画等の計画作成の支援や経営改善に関する研修会の開催等により認定農業者等の経営改善を支援した。

区 分	対 象	内 容
計画作成支援	認定農業者 115経営体	農業経営改善計画 27件(新規取得 10件、再認定 17件)
	認定新規就農者 15経営体	青年等就農計画 4件(新規取得 3件、変更 1件)
研修会等の開催	認定農業者等 130経営体	こまつな収穫機の実演会開催 1回 自動包装機、かん水タイマー現地見学会開催 1回 農業雇用管理研修会開催 1回 広島県スマート農業の取り組みに関する研修会開催 1回 農業機械等(電動農機具)実演会開催 1回 先進的な栽培技術等の情報発信 3回

※認定農業者等の経営体数は令和7年3月末現在

b 広島市認定農業者協議会の運営支援

広島市認定農業者協議会の運営を支援し、認定農業者等の所得の向上と連携強化を図った。

総会の開催 1回

ウ 農業への理解の促進 <決算額：50,643千円>

(ア) “ひろしまそだち”地産地消推進 <決算額：5,238千円>

「市内産、新鮮、安心」な“ひろしまそだち”製品の消費拡大を図るため、イベント等でのPR活動や各種体験会の開催等を通じて“ひろしまそだち”の魅力と地産地消の重要性に関する市民の理解を促進し、“ひろしまそだち”製品の地産地消を推進した。

a “ひろしまそだち”のPR

イベント等でのPR活動や各種媒体を活用した情報発信により、“ひろしまそだち”に関する市民の認知度を向上させた。

区 分	内 容
イベント等でのPR	ひろしまフードフェスティバルでの产品介绍、和牛弁当販売、料理の提供など 佐伯区民まつりでの搾乳体験 湯来フェスでの牛乳、牛串焼の販売 中央市場 市場まつりでの試食等 4件 产品介绍用POPの作成 毎月1回
情報発信	情報誌“ひろしまそだち”だよりの発行 1回 SNSやホームページでのレシピ動画等の配信など 25回

b 体験会等の開催

市民が食の大切さや農業・農村の重要性を考える機会とするため、生産地の状況や野菜の栽培・おいしい食べ方が手軽に学べる体験会等を開催した。

区 分		内 容
体験会	地産地消ツアー	生産者による現地案内と栽培方法・おいしい食べ方の紹介等 4回 延べ75人参加
	トウモロコシの食農体験	トウモロコシのは種や収穫、調理体験 2回 延べ36人参加
	シュンギクの食農体験	シュンギクのは種や収穫、調理体験 2回 延べ10人参加
講習会	畜産教室	久保アグリファームでバター作り体験 1回 15人参加

c ボランティアの育成・活動支援

“ひろしまそだち”に関する市民の理解を効果的に促進するため、PR活動等に携わるボランティアを育成し、その活動を支援した。

【育成研修】

区 分	受講人数	研修内容
食農コーディネーター	12期生 6人	1年目研修（全2年間） 食農体験、市場や生産農家の視察など 11回
“ひろしまそだち”野菜アドバイザー	12期生 5人	1年間 野菜作り体験、市場や生産農家の視察など 10回

【活動支援】

区 分	対象者数	支援内容
食農コーディネーター	1～11期生 55人	PR活動で使用する野菜の提供 7回 フォローアップ研修の開催 2回 延べ17人参加
“ひろしまそだち” 野菜アドバイザー	1～11期生 74人	

※食農コーディネーターとは、市民を対象とした食農体験等の企画・運営に携わるボランティア、
“ひろしまそだち” 野菜アドバイザーとは、料理教室やイベントなどで“ひろしまそだち” 産品の普及啓発に携わるボランティア

d 「“ひろしまそだち” 地産地消協力店」の活動支援

“ひろしまそだち” 産品を取り扱う小売店・飲食店等を「“ひろしまそだち” 地産地消協力店」として登録し、これらの店舗が行う“ひろしまそだち”のPR活動を支援した。

区 分	件 数
パネルやグッズの貸し出し	6件

e 「ひろしま朝市」の開催支援

市民と生産者が交流する貴重な場である「ひろしま朝市」の魅力を向上させるため、ひろしま朝市実行委員会の企画・運営を支援した。

ひろしま朝市の開催状況		
開催回数	延べ出店数	販売額
47回	572店	17,684千円

f “ひろしまそだち” 地産地消推進協議会の運営

生産者、流通業者、消費者及び行政機関等の関係団体で構成する“ひろしまそだち” 地産地消推進協議会の運営を行い、“ひろしまそだち”の地産地消を効果的に推進した。

会議の開催 1回

(イ) 農業体験の促進 <決算額：45,405千円>

農業への市民の理解を促進するため、自然にふれあいながら各種体験ができる場を市民に提供した。

a 花みどり公園<決算額：24,852千円>

自然にふれあいながら花木や草花、園芸に関する市民の知識を深めるため、四季を通じて花木等の栽培展示や、花づくり等の各種講座を開催するとともに、花木等に関心の高い市民をボランティアとして育成し、魅力的な公園運営を推進した。

【花木や草花の栽培展示】

約170品種、5,500本のシャクナゲなど

【イベント等の開催】

区 分	内 容
春のシャクナゲ ふれあい祭り	シャクナゲの展示、ボランティアによる公園案内（4月10日～4月29日）
はなづくり講座	季節の草花の寄せ植えなど 11回 延べ161人参加
みどりづくり講座	庭木や果樹の剪定や手入れ 7回 延べ87人参加
シャクナゲ講座	シャクナゲ栽培の基礎 4回 延べ40人参加
体験教室	果樹の収穫とジャムづくり体験、ハンドメイド体験 8回 延べ247人参加

【市民ボランティアの育成】

花みどり公園内の施設の維持管理及びイベントや講習会等の企画運営等をサポートするボランティア（ファンクラブ）を育成した。

登録者数 19人（令和7年3月末現在）

活動内容 植替え・除草や剪定などの園内管理など 延べ705人参加

b ひろしま市民の里@安佐 ＜決算額：5, 288千円＞

市民の「食」と「農」や自然環境保全の大切さに関する理解を促進するとともに、交流による賑わいを創出するため、市民や地域団体などが主体となって企画運営する野菜づくりや里山づくりなどの農林業体験の場を提供した。

【ひろしま市民の里@安佐運営協議会の開催】

運営協議会の開催 1回

【農林業体験等の開催】

区 分	内 容
農林業体験	野菜作り体験、ハーブ講座など 37回 延べ514人参加
自然観察会	動植物の観察など 11回 延べ212人参加

【施設整備】

区 分	内 容
景観等整備	ブッポウソウの巣箱設置 6か所
遊歩道の整備	枯損木の伐採

c 広島市市民農園 ＜決算額：12, 435千円＞

市民の農業及び農村に関する理解を促進するとともに、健康的でゆとりある市民生活の確保を図り、あわせて農村地域の振興に資するため、手軽に農作物の栽培体験ができる農園を管理運営するとともに、都市農村交流会等のイベントを開催した。

【管理運営】

区 分	内 容
入退園事務	利用者募集、使用許可、利用料金の徴収など
地元管理組織の支援	運営委員会等を対象とした研修 2回

【都市農村交流会等の開催】

区 分	内 容
見張市民農園	ジャム作りや収穫祭、栽培講習会など 6回 延べ98人参加
三田市民農園	ケチャップ作りや収穫祭、栽培講習会など 8回 延べ203人参加
三国市民農園	収穫祭と栽培講習会 4回 延べ55人参加

広島市市民農園の利用状況 (令和7年3月末現在)

区 分	貸付区画数	入園区画数	入園率
見張市民農園	178区画	81区画	45.5%
三田市民農園	112区画	94区画	83.9%
三国市民農園	137区画	102区画	74.5%
計	427区画	277区画	64.9%

※入園区画数には食農区画の利用を含む。

d 広島市市民菜園及び広島市市民体験農園 <決算額：2,830千円>

農業への市民参加を促進するため、農家が遊休農地等を活用して開設した菜園等の管理運営を行うとともに、菜園利用者等を対象とした栽培講習会を開催した。

【管理運営】

区 分	内 容
入退園事務	利用者募集、貸付契約事務の補助など
施設の維持管理	空き区画の保全管理、簡易な設備の修繕など(市民菜園に限る)

【栽培講習会の開催】

区 分	内 容
栽培講習会	春夏野菜や秋冬野菜の栽培管理に関する講習会 8回 延べ194人参加
ほ場見学会	農業振興センターほ場の見学 1回 25人参加

広島市市民菜園及び広島市市民体験農園の利用状況 (令和7年3月末現在)

区 分	貸付区画数	入園区画数	入園率
市民菜園	2,174区画	2,024区画	93.1%
市民体験農園	60区画	60区画	100%

※市民体験農園には区画の貸付以外に野菜づくりの共同体験を実施
利用状況：50組の募集に対し47組利用（利用率94%）

(2) 林業の振興（公益目的事業2） ＜決算額：79,389,574円＞

ア 森林の保全・整備 ＜決算額：73,024千円＞

森林整備の推進 ＜決算額：73,024千円＞

森林の持つ水源のかん養や土砂災害の防止、二酸化炭素の吸収などの公益的機能を将来にわたって維持・増進するため、広島市市有林等の適正な森林整備等を推進し、健全な森林を育成した。

(ア) 市有林等の整備

広島市市有林及び広島市分収林について、「森林経営計画」等に基づき計画的な森林整備を実施した。

区分	整備内容
広島市市有林	利用間伐・間伐 17.36ha、作業道開設 1,370m、境界データ変換 1地区
広島市分収林	枝打ち・間伐・除伐 39.11ha、境界データ変換 1地区

(イ) 太田川源流の森整備

広島市水道局が所有する廿日市市吉和の太田川源流の森について、「太田川源流の森整備基本プラン」に基づき計画的な森林整備等を実施した。

区分	整備内容
太田川源流の森	森林保育：下刈 2.48ha 啓発活動関連の整備：作業道等刈払 1.93ha、下刈 0.90ha 管理歩道等の維持補修

(ウ) 適正な森林管理の促進

森林所有者自らが管理できない森林について、「広島市の森林経営管理推進事業の実施方針」に基づき、意欲と能力のある林業経営者による適切な林業経営に誘導するため、森林の所有者や森林境界等に関する調査を実施した。

調査地区		対象面積	内容
佐伯区湯来町	多田地区43林班ほか3	42ha	経営管理権集積計画の策定
	多田地区49林班ほか4	255ha	アンケート調査、地元説明会開催、森林現況調査
	多田地区88林班ほか7	180ha	森林所有者調査
安佐南区沼田町	阿戸地区44林班	27ha	アンケート調査
		22ha	経営管理権集積計画の策定
	阿戸地区56林班	37ha	森林境界の明確化、地元説明会開催、森林現況調査

イ 担い手の育成・支援 ＜決算額：6,199千円＞

新たな担い手の育成 ＜決算額：6,199千円＞

市民による適切な森林整備を促進するため、施業技術に関する林業研修等の開催により、森林整備に携わる人材を育成した。

(ア) 半林半X移住者支援

中山間地域への移住者を、自ら森林を育て、管理し、林業経営を行う自伐林家として育成するため、森林・林業についての知識や技術習得等に関する林業研修を開催した。

区 分	受講人数	研修内容	備 考
半林半X移住者	3期生 1人	1年目研修（全3年間） 基礎研修	安佐南区沼田町 戸山地区に移住

(イ) 自伐林業担い手支援

森林所有者や地域住民等が自ら行う森林整備を促進するため、安全な間伐作業や未利用材の搬出作業等の技術講習会を開催した。

区 分	内 容
ロープウインチによる 搬出講習会	立木の伐採及びロープウインチによる間伐材の集積・搬出の実習 (2日間) 1回 3人受講
作業道開設講習会	バックホウによる作業道の開設、立木の伐採及び間伐材の集積の実習 (2日間) 1回 4人受講
間伐講習会	伐倒方向、かかり木処理、造材方法等の実習 (1日間) 1回 2人受講
林内作業車による搬出 講習会	林内作業車を使った間伐材の集積・搬出の実習 (2日間) 1回 4人受講
チェーンソー講習会	伐木等の業務に係る特別教育 (2日間) 1回 15人受講
刈払機講習会	刈払機取扱者作業安全衛生教育 1回 19人受講

ウ 林業への理解の促進 <決算額：167千円>

市民参加の森林づくりの推進 <決算額：167千円>

森林・林業に関する市民の理解を促進するため、森林づくりに関する指導者の育成と市民参加の森林づくり事業を市や森林組合等と連携して推進した。

(ア) 里山整備士養成

市民ボランティアや地域住民等による健全な里山再生活動を促進するため、指導者となる広島市里山整備士の活動を支援した。

区 分	対象者数	支援内容
広島市里山整備士	1～11期生 30人	森林整備活動団体等(2団体)とのマッチング 8回 延べ47人派遣 フォローアップ研修の開催 3回 広島市里山整備士会総会の開催 1回

(イ) 市民参加の森林づくり事業

市民が森林づくり活動に自発的に参加する動機付けと気軽に参加できる緑とのふれあいの場を通じて、森林・林業に関する市民の理解を促進するため、市民参加の森林づくり実行委員会が行うボランティアの育成等の取組の企画・運営を支援した。

【育成講座】

区 分	受講生	内 容
もりメイト	29期生、30人	間伐や植林の実習など 9回

※「もりメイト」とは、市民による森林づくり活動の先導的役割を担うボランティア

【その他の取組】

区 分	内 容
女性のための森林づくり入門 体験講座の開催	森の健康診断や竹林の整備、自然観察など 2回 19人受講
森林整備活動用具の貸出し	森林整備活動を行う9団体への用具の貸出し 9回
ひろしま「森の市」の開催	森林ボランティア団体の活動紹介や森で活動する人々のフォト コンテスト、林業体験、木製品・森の産物の展示販売など 開催日・場所 11月3日 広島市森林公園(入園者数2,365人) 参加団体 8団体
市民参加の森林づくり実行委 員会の運営	総会等の開催 2回

(3) 水産業の振興（公益目的事業3） ＜決算額：67,640,311円＞

ア 調査及び試験研究 ＜決算額：6,731千円＞

(ア) 増殖・養殖に関する調査 ＜決算額：2,113千円＞

養殖等に関する指導に必要な情報を把握するため、カキ稚貝の付着状況、ワカメの生育状況及びアサリ稚貝の分布状況等の調査を実施した。

a カキ養殖に関する調査

区 分	調査期間	地点数等	調査回数	内 容
カキ採苗調査	6～8月	18地点	幼生調査 48回 種見調査 61回	カキ幼生の分布状況やカキ稚貝の付着状況の調査及び採苗不調の原因究明のための調査研究（国及び広島県、漁業団体、広島市と共同実施）
害 敵 生 物 調 査	ムササビガイ	4～6月、 1～3月	11地点 幼生調査 37回 付着調査 26回	カキの成育不良の原因となる害敵生物の付着状況等の調査
	稚ガキ、 フジツボ	9～10月	4地点 付着調査 6回	
	カンザシゴカイ類	9～12月	2地点 付着調査 14回	

抑制棚調査	8～10月、 2月	似島地先 等	5回	抑制棚におけるカキ稚貝の管理方法 等を把握するための調査
出荷サイズ調査	4～5月、 10～3月	9経営体	72件	カキの成育状況及び出荷動向等を把 握するための調査
養殖筏の耐久性調査	通年	弁天島 地先	12回	環境に配慮した高耐久性資材で作成 した養殖筏の導入を検討するための 調査（漁業団体と共同実施）

ｂ ワカメ養殖に関する調査

区 分	時 期	地点数	調査回数	内 容
ワカメ	11～2月	4地点	4回	養殖海域の環境及び生育、食害状況 等の調査

ｃ アサリ漁業に関する調査

漁獲量が減少しているアサリ資源を増殖するため、天然種苗の活用等を検討するための調査を実施した。

区 分	地点数	調査回数	内 容
稚貝分布状況等調査	3地点	3回	天然種苗を確保するための稚貝の分布状況等の 調査 岡の下川河口干潟等において、殻長数mm の稚貝が多数発生していることを確認した。

(イ) 漁場環境に関する調査 <決算額：１，９０２千円>

カキ等の成育に影響を及ぼす漁場環境を把握するため、広島湾における水質等の調査を実施した。

広島湾漁場環境調査

区 分	地点数	調査回数	内 容
水質調査	11地点	112回	広島湾北部海域及び大黒神島海域における水温 やカキ幼生の餌となる微細な植物プランクトン 等の調査
底質調査	6地点	4回	広島湾北部海域における底質の全硫化物量等の 調査（時期：6月 2回、8月、2月）

有害プランクトン 調査等	3地点	11回	魚介類のへい死や二枚貝の毒化を引き起こす恐れがある有害プランクトンの調査及び貝毒等検査の検体の採取
-----------------	-----	-----	---

(ウ) 水産資源に関する調査及び試験研究 <決算額：2,716千円>

海面及び内水面の資源増殖に関する指導の基礎資料とするため、放流魚等の漁獲実態を把握する調査や、新たな資源増殖に関する調査及び試験研究を実施した。

a 漁獲実態等調査

区 分	調査回数	内 容
漁獲実態調査	20回	漁業魚種や漁獲量、市場への出荷状況等の漁業者への聞き取り調査 (対象：5経営体)
種苗放流効果調査		

b 資源増殖に関する調査及び試験研究

区 分	調査回数	内 容
ナマコ資源増殖試験	8回	漁獲量が減少しているナマコ資源の増殖を図るために行う種苗の生産及び放流並びに放流効果等の検証に関する調査 体長約15mmの種苗を4.9万個体生産・放流し、放流効果の検証に関する調査を行ったが、放流効果が確認できなかったため、令和7年度は放流場所等を変更して試験を実施する予定である。
アユ資源増殖に関する調査	1回	太田川再生方針に基づくアユ資源を増やす取組の効果検証のために行う、高瀬堰下流域におけるアユの産卵数及び産卵環境の調査等
カワウ対策に関する調査等	3回	魚類の食害が深刻化しているカワウ対策として実施するねぐらへのテープ張り 北大橋上流の中州や高瀬堰上流右岸に生えている樹木に形成されたカワウのねぐらに対し、漁業団体がテープ張りを実施したため、取組を支援するとともに技術指導を行った。
シジミ資源状況等調査	3回	太田川再生方針に基づくシジミ資源を増やす取組の効果検証のために行う、シジミの資源状況等の調査 (時期：5月、9月、10月、地点数：20地点)

藻場造成試験	4回	稚仔魚が成育する場である藻場の造成方法を検討するために行う種苗の生産及び造成試験等 11月及び12月に魚礁へ固定した約1mのアカモク種苗が、2月には魚礁上で最大約4mに生長し、藻体の上部は水面に達していることを確認した。
--------	----	---

イ 担い手の育成・支援 ＜決算額：59,246千円＞

(ア) 漁業技術の普及指導等 ＜決算額：3,441千円＞

生産量の増加や品質の向上等により、漁業収入の安定化を図るとともに、市民へ新鮮な魚介類を安定的に供給するため、漁業者に対し、調査及び試験研究の結果を基にした指導や販売支援を実施した。

a カキ等養殖に関する指導

カキ採苗調査や広島湾漁場環境調査等の結果を取りまとめ、広島市内の漁業団体をはじめ、関係者へ情報提供するとともに、各種調査結果を基に養殖指導や研修会を実施した。

カキの採苗については、例年より早くカキ幼生が確認されたため、調査を開始し、広島湾内については6月中旬頃から、大黒神島海域については6月下旬頃からカキ稚貝のまとまった付着が始まった。付着のピークが、広島湾内については7月下旬頃、大黒神島海域については8月上旬頃出現したことで、市内のカキ養殖業者は必要な種苗を確保した。

区 分	内 容
養殖指導	カキ養殖指導 1,704件
研修会の開催	カキ養殖研修会 4回 34人参加

b アサリ、その他漁業に関する指導

アサリ稚貝分布状況等調査や広島湾漁場環境調査の結果を取りまとめ、広島市内の漁業団体へ情報提供するとともに、各種調査及び試験研究の結果を基に技術指導を実施した。

アサリ漁業については、漁業団体が当センターの稚貝分布状況等調査結果を基に4～5月に魚類による食害を防止するために被覆網を設置して管理を続け、3月に殻長30mmを超える多くのアサリを収獲した。

シジミ漁業については、太田川再生方針に基づくシジミ資源を増やす取組として、漁業団体が魚類による食害を受けにくい河川護岸の岩の隙間に向けて満潮時に船上から母貝となる種苗を放流している。

今年度は、全ての種苗を確実に岩の隙間へ放流するため、当センターの指導により漁業団体が、干潮時に直接当該隙間に手入れで放流した。

区 分	内 容
養殖指導	魚介類増養殖指導 1,305件

c 販売支援

漁業収入の安定化や地産地消の推進を図るため、漁業者が実施するひろしま朝市等での販売を支援した。

区 分	内 容
ひろしま朝市での販売支援	開催情報をホームページに掲載。定期イベント開催時に出店者に対し、販売用POPや会場設営のレイアウトについて助言。

(イ) つくり育てる漁業の推進 <決算額：55,805千円>

海面及び内水面における水産資源を維持増大することにより、漁業収入の安定化を図るとともに、市民へ新鮮な魚介類を安定的に供給するため、種苗生産等を実施した。

a 種苗生産

次のとおり種苗を生産し、広島市に引き渡した。

種 類	計画数量	生産結果	大きさ等
アユ	70万尾	114.6万尾	0.5g以上
マコガレイ	12万尾	17.23万尾 ^{※1}	30mm以上
アイナメ	1万尾	1.2万尾 ^{※2}	60mm以上
ガザミ	20万尾	31.6万尾	稚ガニ3令以上
ワカメ	8,000m(種糸)	8,000m(種糸)	幼芽3mm以上

※1 令和5年度に生産を開始し、マコガレイ種苗大型化に向けた生産技術開発試験を実施して6年度に広島市に引き渡した40mm以上の種苗（計画数量10万尾）。

6年度に生産を開始した種苗については、7年5月に広島市に引き渡し予定。

※2 1.2万尾のうち、0.8万尾については、令和5年度に生産を開始し、6年度に広島市に引き渡した種苗。6年度に生産を開始した種苗については、7年3月に0.4万尾を広島市に引き渡した。今後、7年4月に1.3万尾、広島市に引き渡し予定。

b マコガレイ種苗大型化に向けた生産技術開発試験

マコガレイ種苗の放流効果を高めるため、種苗を30mm以上から40mm以上まで大きくする種苗生産試験を実施した。

4月上旬から給餌方法や選別方法等を試行しながら試験を実施し、5月上旬から下旬にかけて40mm以上の種苗17.23万尾を広島市に引き渡した。

c 種苗放流指導

漁業関係者を対象に、種苗放流、資源管理及び栽培漁業技術等の指導や研修会を実施した。

区 分	内 容
種苗放流指導	種苗放流指導 40回 延べ92人参加
研修会の開催	ナマコ研修会 1回 12人参加

d 水産振興センターの維持管理

施設の機能を良好に保つため、施設内の清掃、警備及び設備等の保守点検等を実施した。

ウ 水産業への理解の促進 ＜決算額：１，６６３千円＞

学習会の開催等

市民の水産業への理解の促進を図るため、関係団体の協力を得ながら、学習会等を実施した。

(ア) 体験学習会

区 分	内 容
海辺の教室	水産業や生物に関する体験学習会 10回 延べ162組393人参加 テーマ：広島といえば“かき養殖”、干潟に暮らすいきもの達、つくり育てる漁業、チリメンモンスターを探せ、清流の女王～あゆ～、貝殻アートづくりに挑戦、かまぼこ作りに挑戦、海そうはSDGs、
広島市アサリ学習会	アサリに関する体験学習（漁業団体と共同実施）1回 20組40人参加
海と漁業の体験 スクール	カキ打ち体験 1回 120人参加 干潟の生物観察 1回 181人参加 種苗の放流体験 1回 116人参加
広島かき子ども体験隊 ～見る・知る・味知る～	カキ養殖作業の体験学習会（漁業団体と共同実施）2回 13組26人参加

(イ) 水産関係イベントの支援

漁業団体が開催した井口ワカメオーナー制度等の水産関係イベントに協力し、市民の「広島市の漁業」や「つくり育てる漁業」への理解の促進や魚食普及を図った。

区 分	内 容
水産関係イベントの支援	井口ワカメオーナー制度の実施に際し、効果的な企画等について助言。ひろしまフードフェスティバルの出店者に対し、販売用POPや会場設営のレイアウトについて助言。

(ウ) 水産業に関する情報の提供

区 分	内 容
施設の一般公開	資料展示室の一般公開、カキ養殖など広島市の水産業の説明及び種苗生産施設の案内等 来館者数 延べ7,422人、団体数 延べ209団体
情報の提供	ホームページやSNS等を活用した水産業に関する情報の提供並びにカキ養殖等の漁業に関する研修会及びワカメ養殖等の体験学習会等への講師の派遣 ホームページアクセス件数 16,789件、水産知識に係る情報提供 53件 講師派遣 5回 399人受講

(4) **収益事業** <決算額：223,493円>

自動販売機設置事業

施設利用者の利便性の向上を図るため、飲料水自動販売機を設置した。

設置場所	台数
農業振興センター	1台
花みどり公園	2台
見張市民農園	1台
三田市民農園	1台

7 無償使用貸借資産

事業を実施するにあたって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

(1) 建物及び土地(令和7年3月31日現在)

名称	所在地	区分	現在高
広島市農業振興センター	広島市安佐北区深川八丁目30番12号	建物	事務室等 545.04㎡
ひろしま市民の里@安佐	広島市安佐北区安佐町久地及び毛木地区	土地	—

(2) 物品(令和7年3月31日現在)

区分		現在高
車両	乗用車	4点
	貨物車	2点
	トラクター	1点
組立式物置		1点
合計		8点

※取得価額又は評価価額が100万円以上の物品を記載

8 附属明細書

記載すべき事項はない。